

新刊書紹介

宮崎俊行者「請負耕作と農業生産法人」(発行所・鳳舎、東京都新宿区大京町三一、本文三一頁、定価二二〇〇円)

著者は昨年度の村研大会において、本書に収録されている宮城県
の吉田協業組合について報告されているが、慶応義塾大学法学部教
授であり民法を担当している。農業法学者としては先に「農業法
人の研究」(慶応通信刊)があり、農業法学会理事である。

本書は、いわゆる請負耕作、農業法人および親子契約(父子契約)
についての著者の最近の六年間における研究を集大成したものであ
り、第一部請負耕作、第二部農業生産法人と親子契約からなり、次
の各章を含んでいる。第一部、一、請負耕作の実態、(有限会社大
川農事耕作会社、勝田農事実行組合、大垣南農協同組合機械化営
農組合、吉田協業組合)二、請負耕作の定義、分類および社会経済
的意義、三、農業「経営」規模拡大と組織的対応。第二部、一、農
業生産法人の実態、二、農業生産法人の法的諸問題、三、親子契約、
四、農業法人裁判とその一般的意義

序にもあるように、「今日の問題」に肉迫し、みずからかけた
「現地学派」の名をはずかしめないように努力した成果であり、現
在「社会的沸騰」状況下にある農民の今日の問題に対する指針書と
してのねらいをもった著作である。